



その数年後、東京の古典会の売り立てに、不思議な「礼器碑」が出品された。毎頁の上端に「寶」の朱文印が捺され、布を巻いた厚紙の表紙の題簽には、隸書で「礼器碑 御賜」とあり、見返し右上端にも「御賜」とあった(図版①)。本文の巻頭は、やや汚れ、皺があるが拓調は、実に丁寧で、墨の軽い擦拓であり、字画が鮮明に拓出されている。しかし碑石の破損部分が白く拓出されている所が、やや薄い墨で補墨されていた。また文字の右上に淡い色の彩墨で釈字が書き込まれていた。碑陽のみの一帖であり、巻末に尹師國なる人物の手による碑の釈文が書かれていた。「廟」字の「月」部分の残存状況から旧拓であり(図版②)、

30年前頃から中国の北京でも欧米のオークションに倣って、書画や古書などの売り立てが行われるようになつた。当時は、中国国内の方よりも、外国人向けのように感じていた。こうしたオークションで購入された古書等を日本でも販売する方もあらわれた。95年頃か、関西で偶然に旧拓の「礼器碑」に出くわした。楠木の表紙、擦拓の精本であり、碑陰、両側の四面が一帖に仕立てられ、装丁・書品・保存状態ともに佳い折帖であるが、旧蔵者の蔵印のみで、題記は無い。碑側はやや拓調が劣るが、四面の拓調は、ほぼ同系で美事であった。前号のは碑文が不全であり、こちらは完全であつた。しかし丁寧に見ていくと巻頭に近い部分で、20字ほどの拓紙の色が微妙に異なるのに気がついた。全体の拓調と異なり、多分何らかの事情で補われたのである。また巻頭の碑文の一行目の僅かに欠けた六字部分の拓紙の右端が別紙で補われ、丁寧に修理されていた。碑文は、ほぼ完全であり、旧拓であるのでどうしてもほしくなり、手を出した。以後、礼器碑を比較、学ぶ上での対照本としてよく活用している。

「落ち穂拾い記」(28)

金正喜題簽本『礼器碑』(中)

(図版②)



(図版③)



惟永壽二年青龍在添歎霜月之靈皇極之日魯相河南京樞府追惟大古華胥生皇雄廟誕育全寶俱制元道百王不改孔子近聖為漢定道自天王以下至于初學莫不驩思嘆印師鏡額氏聖陽家唐魯親里升官聖妃在安樂里聖族之親祀所

…中略…

精誠堂別碑

載丙寅十月十二日三山退老書于三山
之同撫堂中時年七十九



拓本の周囲に当てられている用紙が、中國紙ではなく、朝鮮の紙のようであった。装丁も少し異なっていた。珍しい拓であり、挑戦したが無理であった。翌年、関西の書店の古書目録にこの『礼器碑』が売り出されており、急いで電話して入手出来た。仔細に調べると、まさしく朝鮮李朝時代に装丁された『礼器碑』の旧拓本であった。装丁の紙が、朝鮮紙であるが、曲阜の孔廟にある礼器碑の原刻旧拓本が用いられている。「申櫟私印」(白文印)、「臣申觀浩」(朱文印)(図版②)、また巻末の尹師國の跋文(図版③)の年紀から、李朝の1806年(嘉慶11年)以前の拓であることを示している。この『礼器碑』は乾隆から嘉慶年間にかけて、清国からもたらされた拓を基に制作された碑帖と推測した。また題簽や「御賜」の毛筆の書(図版②)が、美事であり、特に「御賜」の筆勢が雄渾であり、以前に目にした李朝の書聖・金正喜(1786~1856、阮堂・秋史などと号す)を彷彿とさせるよう強く感じられた。この李朝装の『礼器碑』は、前の2件の『礼器碑』と同じ頃の旧拓精本であるが、全体に文字部分に係らないように、碑石の石花(破損)に加えられた填墨が、大変惜しく感じられた。その後も題簽と「御賜」の書者が気になり、朝鮮と清朝の学術交流を古くから研究されていた藤塚隣先生の著作などを見て、金正喜と翁方綱らの交流を知り、あれこれ思索したり、朝鮮美術の専家等に問うも不明であった。ある時、古書店で来日されていた韓国の書道雑誌の編集者と面識を得た。以後の交流の折に、手紙でこの筆者の問題をコピー資料を同封して尋ねたところ、当地の研究者の皆さんに、金正喜の書で間違いないとの返信を見て、頭の隅に引っかかっていたものがとれて、ほっとした。

伊藤滋(書齋名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



第74回書道芸術院展 春華賞受賞作品 「聖火」

廣瀬舟雲書

「常にプラス思考で前向きに」



廣瀬舟雲

小学2年生の時、私の硬筆作品がクラスで選ばれ体育館に展示された。これがきっかけで書が好きになりました。毛筆が始まるとさらにかけて書が好きになりました。毛筆が始まるときから、面白くなつた。またハンドコに興味を持ち、蒲鉾板や粘土に文字を彫り遊ぶ。その後、近所の本屋さんで篆刻という分野であることを知り、その中の様々な印にあこがれた。木更津高校に入学し初めての書道の授業後、辻元大雲先生に「篆刻を教えて頂けませんか」とお願いすると、「書道部に入ったら」とのお誘いで即入部。篆刻・古典臨書・詩文書だけではなく刻字・ろうけつ染めなども学習。書芸術の魅力と先生の書への情熱に益々惹かれ、同じ道を目指そうと部活に燃えた高校時代であった。

大学は書道科へ進学。同時に先生の薦めで種谷扇舟先生に入門。絶妙な筆使いを眼前に書を学ぶ。扇舟先生の教えは「常に本物を見て学ぶこと」。中国の映像や写真、そして入手された原拓を度々見せて頂き中國書道史研究を志す契機となつた。その後、中・高校の教員となり、現在は大学で教鞭をとる。書道史研究では鄭道昭研究を中心とし、特に論経書詩の不明字解明に尽力し、現在は奈良薬師寺の国宝仏足石・仏足跡歌碑

の研究を書道・歴史学・仏教学の専門の先生方と共に進め5年が過ぎる。書写書道教育では、昨今の動向調査や教科書作り、附属幼稚園での就学前教育の実践研究に携わる。書道は対面授業が絶対と思っていたが、コロナ禍によりZoomによる可能性も探らざるを得なくなつた。地域への貢献としては武藏野の三石碑を多方面から考察した著書『刻された書と石の記憶』などを刊行。増補版も発行された。西東京の大氏神「田無神社」の社号を揮毫させて頂き、その文字が絵馬や市街の電柱看板等になつている。西東京市文化財保護審議会委員など地域の文化振興にも携わらせて頂き、今や第二の故郷となつた。東京2020聖火リレーが西東京を通過するその瞬間を心待ちにして、地域で文化芸術フェスティバルを企画。しかしコロナは收まらず残念ながら中止。聖火は私の作品の中ではさやかながら、でも永遠に灯ることとなつた。

書ではフランス・パリ、そして東京新宿住友ビルでの個展からすでに年月が経つ。個展開催を夢見て作品を書きためている。もうすぐ武藏野大学創立百年、記念事業の百年史編纂と石碑担当となる。忙しくなるが楽しいことは大好きだ。「どんな時も常にプラス思考で前向きに」これが私の信条である。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

公益財団法人書道芸術院定例理事会 開催 令和4年度事業・予算案など

3月6日(日)午後、上野精養軒にて表記定例理事会が開催された。令和4年度事業計画案・同予算案を中心審議、その他の案件も原案通り可決した。(詳細は院報にてご確認を)

- ・議案第一号 令和4年度事業計画
- ・議案第二号 同 予算案
- ・議案第三号 創立75周年記念事業
- ・審議事項
- その他

創立75周年記念書道芸術院展 役員作品全国巡回展南関東展開催

2月の第75回記念書道芸術院展を無事終了し、記念事業の一環である役員作品全国巡回展が本年3月から11月まで、全国13の総支局を会場に展開されることとなった。

全国巡回展の劈頭を飾ったのは本院南関東総局。3月8日から13日まで、千葉県立美術館5・6室を会場に開催された。役員巡回作品は顧問・理事・監

事・評議員・参事に歴代会長(香川峰雲・香川春蘭・中島邑水・加藤翠柳・種谷扇舟・恩地春洋)6点を含め計63点。

今回は本展での企画展示「香川峰雲遺作展示」の作品も10点余ではあるが各地区での壁面の余裕により展示することとなつており、千葉会場では10点が特別展示された。



南関東展 作品解説会

創立75周年記念書道芸術院展 役員作品全国巡回展東北総局展開催

前記の南関東総局展に続き、3月18日から23日まで宮城県仙台市せんないメディアテークを会場に東北総局が主

管して表記の展覧会が開催された。

全国巡回展作品は南関東展と同様で、香川峰雲遺作展示も同規模で開催された。搬入陳列の前日3月16日に宮城県



東北展 会場風景

下谷洋子毎日芸術賞受賞祝賀会

本院常務理事下谷洋子さん毎日芸術

賞受賞祝賀会は、当初の計画を縮小してセレモニーのみ3月6日(日)理事会

後に開催した。本院財団役員(理事・監事)および評議員のみに呼びかけて、

下谷さん主宰の書泉会役員代表にご参加いただき、祝辞は院を代表して辻元理事長、ご来賓として毎日書道会西村修一専務理事よりいただいた。記念品・花束の贈呈を行い、下谷さんからの謝辞をいただき、心温まる祝賀式典となつ

として祝賀会などは、折からのコロナ禍による蔓延防止重点措置などのため全て中止せざるを得なかつたことは、誠に残念であった。そのため3月12日

に急速会場にて辻元大雲理事長、下谷洋子常務理事により全国巡回展および香川峰雲先生の業績など院の歴史を顧みながらの解説会を行つた。主管の種谷萬城南関東総局長など地元役員の挨拶も含め、短時間であつたが、60余名の参加者には予定外の催しとなつた。

前記の南関東総局展に続き、3月18日から23日まで宮城県仙台市せんないメディアテークを会場に東北総局が主管して表記の展覧会が開催された。

賀懇親会が130名余の参加で賑やかに開催された。主催者として参加する予定であった辻元大雲・下谷洋子は地震による新幹線不通のため参加を見合わせさせていただいたが、毎日新聞社三岡文化部長書道担当部長が東京から参加していただき錦上華を添えて頂いたことは感謝に堪えないことであった。

かな基礎基本講座(23)

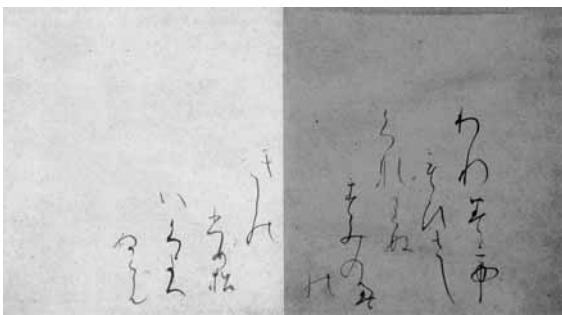
下谷洋子

かなの書式 散らし書き⑥

緑色紙による創作への展開Ⅱ

右の頁に上の句、左の頁に
下の句を書くこの形式は、緑
色紙の多くに見られます。こ
こでは上の句は五行、下の句
は四行で構成されていますが、
概ね行数は似ています。

今回の一葉は、上の句と下
の句の間が少し近くなっています
ですが、かなり広く間を取っています
るものもあります。行間も、
一字の能以外はここではほぼ
均等ですが、上の句は行の方
向をやや違えて、流れに変化
を出しています。また、三行
目下部の余白や、下の句の一
行目下の余白は、次の行を少々
右に寄せ、余白に働きかける
ように字体がなや漢字を効果
的に配して、かなならではの空
間処理をしています。



参考作品

歌が変わるので、まったく同じ散らし
にはなりにくいが、この発想の柔軟さ
がかなには必要。

(大辻多希子書)

あしひきの山の際照らす桜花
この春雨に散りゆかむかも
(万葉集)

現代詩文書基礎基本講座(23)

小竹石雲

〔臨書から現代詩文書への展開〕

①蘭亭序風のひらがな表現方法

・一方に偏することなく中庸の気持ちで書いてみた。(字形、緩急、強弱などすべてにおいて)

・蘭亭序風に限ったことではないが、氣脈の貫通が大切。

②蘭亭序風の現代詩文書

義之が官職を辞し道徳的制約から解放され、自由さを求めての遊宴の現場で生まれたのが蘭亭序です。何物にも束縛されることなく心静かに書けたらとの思いで筆を執った。



ふるさと雀
よく鳴きに
けり

創立75周年記念書道芸術院展 香川峰雲遺作展示

書道芸術院創立75周年記念香川峰雲遺作展示 ごあいさつ



書道芸術院創立75周年を記念して、院創立の功労者であり第3代会長を務められた香川峰雲先生の遺作を、香川倫子先生、ご関係者の皆様のご賛同ご協力をいただき展示いたします。

斬新的な造型、自由な発想、現代感覚溢れる篆刻作品、更に新しい書表現分野として、立体的、色彩を含む総合的な書作品分野として確立させた刻字書。その新しい感覚と、自書・自刻、彩色による多様な表現は、毎日書道展での刻字部門の新設として、筆・墨・紙による書表現の領域を大きく拡げることとなりました。

香川峰雲遺作展示が、今日の書芸文化の発展充実に寄与することを期待します。

令和4年2月

公益財団法人書道芸術院
理事長 辻 元 大 雲

「香川峰雲遺作展示」に寄せて

毎日書道会理事 薄 田 東 仙

創立75周年記念書道芸術院展の開催おめでとうございました。

コロナ禍の厳しい現状での「香川峰雲遺作展示」に伺い、遠い昔に思いを馳せさせて戴きました。私は今から50年前には書道芸術院の会員として多くの方々と共に展覧会等の仕事を進めておりました。師の故長揚石が創玄から移籍した為、弟子の私達も動いた訳です。

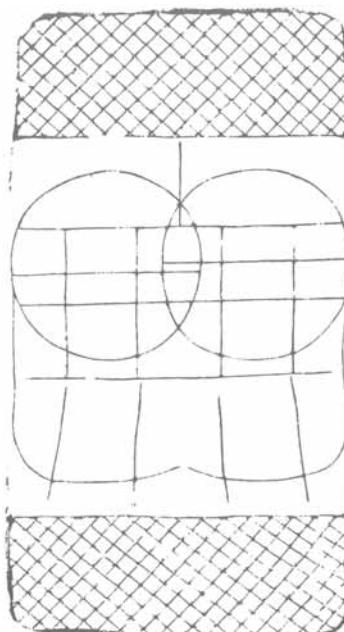
昭和45年、日本刻字協会発足に当たり、また、岩波映画の高校書道「生活書」（篆刻・刻字）制作の為、峰雲先生と一緒に仕事をする機会を得、四谷坂町にも足を運ぶ様になりました。ですから刻字作品の制作には同席させて頂きましたが、篆刻作品の制作は目にする事はありませんでした。

今回の「香川峰雲遺作展示」を観、現代に繁がる要因がそこに見て取れる事のすばらしさ（もう峰雲先生はここまで進んでいたのか）を感じ得ました。

刻字作品も篆刻作品も制作年が解明され、表記されていたらもっと興味深く、時代と作品の変遷をわかり易くしたに違いないと感じました。峰雲先生の作品の中で峰雲先生の作風に準ずる作品に出会えた事が、先生はまだ生かされていました。胸が熱くなりました。

昭和52年5月17日、峰雲先生の悲報は第8回日本刻字協会の定期総会終了後、会場に伝えられました。これも奇しき因縁のようなりません。『書は芸術である』との旗のもと、今後ますますの書道芸術院の発展をお祈り申し上げます。

書道藝術院創立75周年記念香川峰雲遺作展示



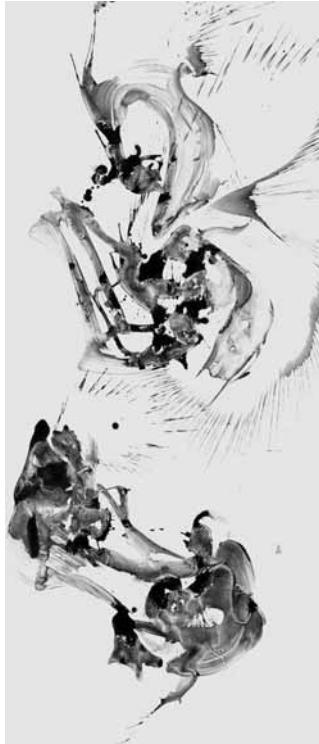
第75回記念 書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院春華賞



前衛書部
大町 青蓮



大町 青蓮



三浦 朱鳳

書道芸術院大賞



前衛書部
三浦 朱鳳

第75回記念書道芸術院展におきまして、栄えある「春華賞」を賜り感激と感謝の気持ちでいっぱいです。振り返りますと、東日本大震災の翌年 第65回記念展で「記念賞」を受賞致

しました時の事は、今でも深く心に残っております。10年後の今年奇しくも「春華賞」受賞とは、ご推挙頂きました先生方、またこれまで育てて下さった宮城野書人会の先生方に厚く御礼申し上げます。

「春華賞」は遙か彼方で光輝く、私は手の届かない賞であると思っておりました。受賞作品「ひたむきに」は書線と空間を意識しながらも心は無で一気に仕上げました。

今後も古典と向き合い深め、その時々の心情を私なりの前衛作品で表現して参りたいと思っております。

この度、第75回記念書道芸術院展にて「大賞」という思いもよらない賞を賜り驚きました。これもひとえに書道芸術院の先生方、また千葉蒼玄先生、紅雪先生、故高橋小汀先生はじめ玄穹

社の皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。私は小汀先生と出会い書を習い始めました。東日本大震災後、書道を一時中断しました。その後復興に全力を注ぐ日々の中、「千葉先生から書道道具が届いてるからそろそろ稽古始めませんか」と小汀先生から声をかけて頂き涙がとまりませんでした。家族もすめてくれ書道再開しました。

今元気で暮せるのは多くの方々の支えのお蔭と感謝の毎日です。今回の受賞作は、「自分の気持を」と紙に向った最後の1枚でした。この受賞を心にとどめ日々精進してまいりたいと存じます。

第75回展記念賞

— 審査会員 —

「散華」



「池尻足穂の句」

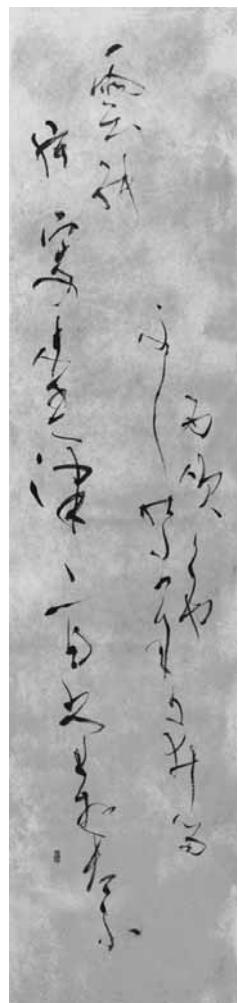
武山 櫻子



「阿鴻浜翠燕」



「李白詩」



九條 純代

「西吹くや」



「塵不動」

大沼 樹峰

書道芸術院準大賞



「螳螂之斧・大直若屈」

高松
香風



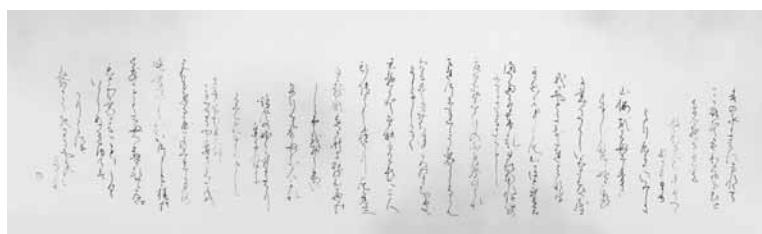
「據」

柄山
明珠



「跳」

栗原 りか



「春の水」

高山 裕子



「風景開眼」

長谷川 翠

第75回展記念賞

— 審査会員候補 —



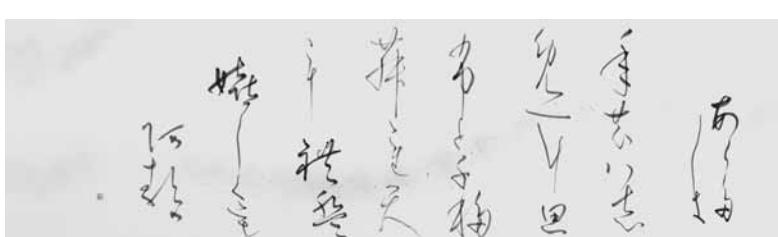
荒谷 明美



川村 素舟



神本 星光



清水由紀子

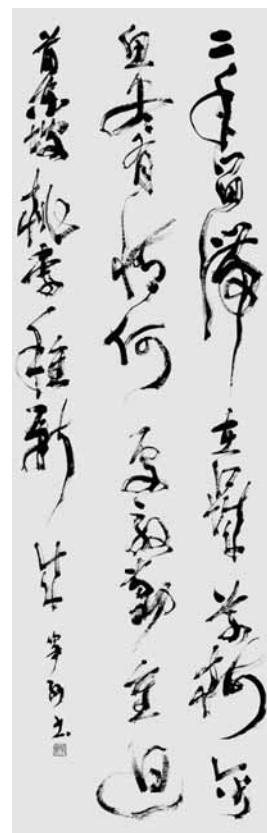
白雪紅梅賞



「奇蹟」

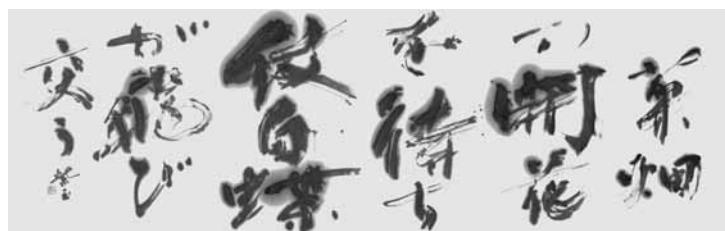


柿沼 彩香



「別種東坡花樹」

池田 筝紗



「紋白蝶」

笠原 紫玉



「楓橋夜泊」

鍛治 翠香



「廉」

木原 尚子

白雪紅梅賞



「宗左近の詩」

高野 博行

「元夕賜觀燈詩」



「身に宿る四季」

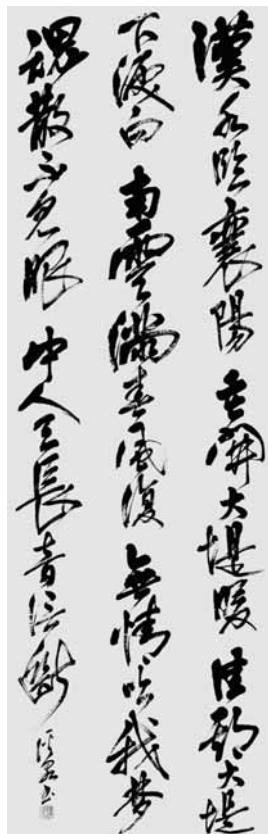
芳賀 真桜

坂井 恵美



「四時田園雜興」

戸部 藤風



徳永 溪泉

「大堤曲」

〈第74回展で選抜（春華賞・春華賞候補）された大作コーナー〉



「定家のうた」

225×320cm



「棄」

242×362cm



「長風萬里碧雲遠」

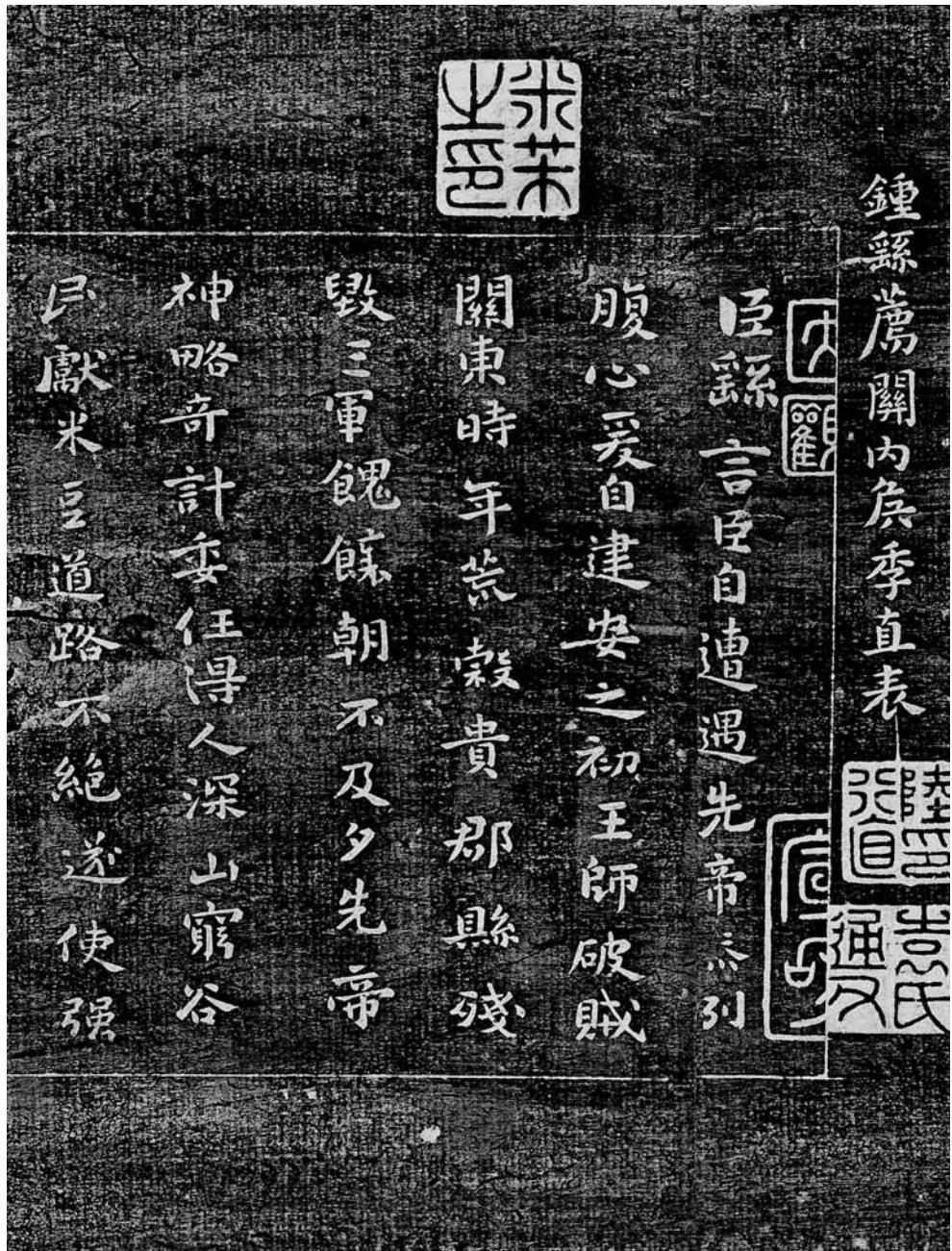
285×177cm

薦季直表（魏・鍾繇）①

漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

(A 大作の部 每日筆會賞・貪サイン以外 2×6尺・縦88cm以内)
(B 小品の部 半切以上半切内・縦88cm以内)
奇(奇縦横用)



〈真賞斎帖より〉

(掲載図版・85%に縮小)

〔解説〕
薦季直表は、中国三国時代・魏の黄初2年(221)の作と伝えられている。鍾繇(151-230)が魏の文帝曹丕に奉った上表文で、魏の建国にあつて功績のあつた閼内侯季直といふ人物を推薦するために書いたものである。偽作とする説もあるが、素朴な趣のあるこの書は、古くから鍾繇の細楷の名品として尊ばれている。

薦季直表は数種の法帖に刻されているが、「真賞斎帖」の刻が最も精密とされ古意豊かな筆意を味わうことができる。

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

(半紙普通判) 料紙可・縦長に使用
別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

「よみ」^東
としのうちに
はるはきにけりひと
「せをこそ」とやいはむことしとやいはむ

はるのたちけるひよめる
きのつらゆき

そこでひちてむすびしみづのこぼれる
をはるがたけふのかぜやとくへらむ

解説

高野切は、「古今和歌集」現存最古の写本で、もとは20巻の巻物であったが、後に切り離され、現在、卷五・八・二十の完本、卷一・二・三・九・十八・十九の一部が断簡で残っている。

『古今和歌集』卷第九の巻頭の断簡(大阪・湯木美術館蔵)が

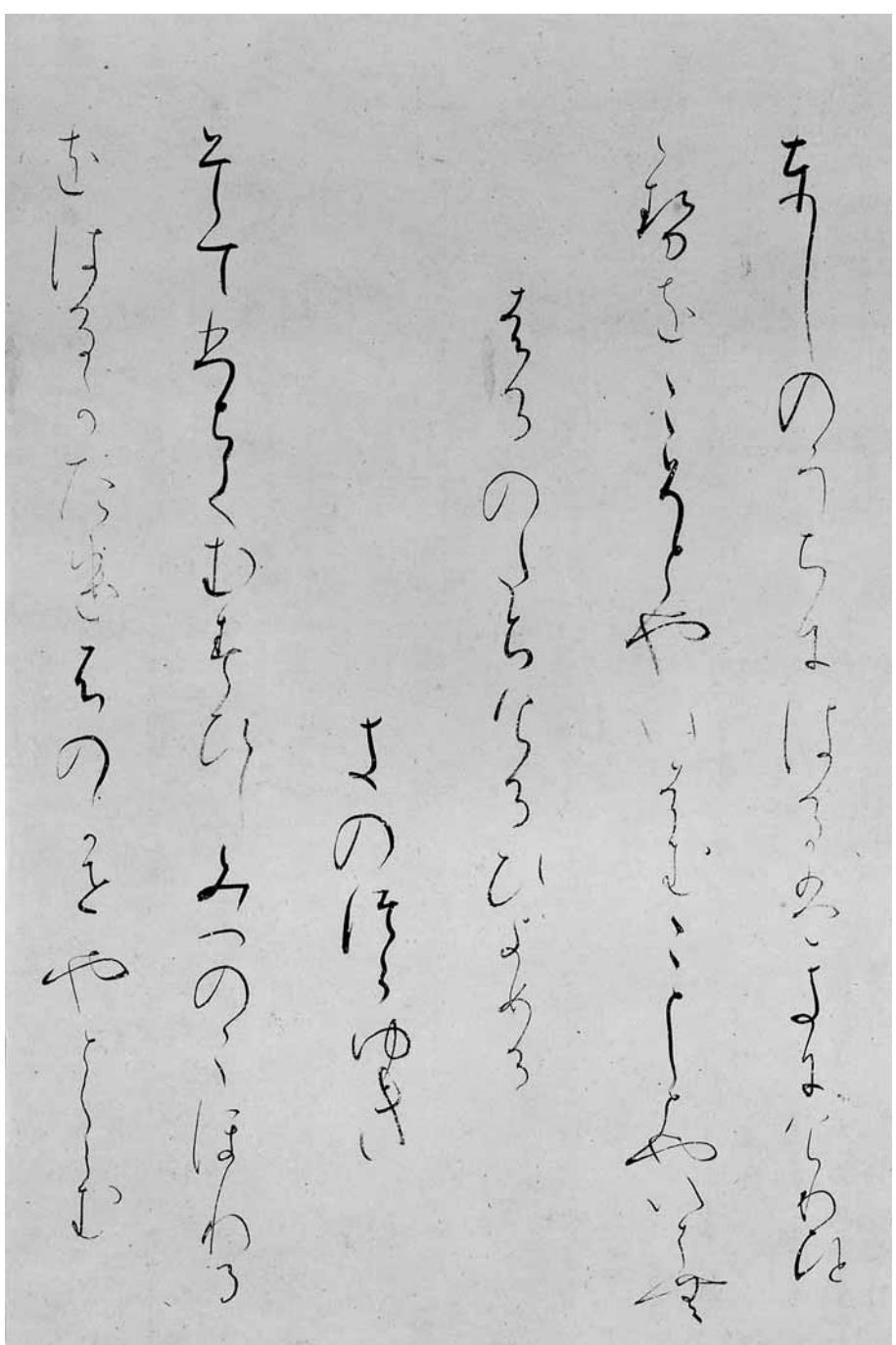
高野山に伝来したことから、この一連のすべてが「高野切」と呼ばれている。筆者は、紀貫之(861?~955)と伝えられている。

が、実際は100年あまり後の11世紀中頃の3人の能書が分担して書写(寄合書)したと推定される。その書風から第一種・第二種・第三種に分類される。

この第一種は、優雅な落ちついた運筆で格調が高く、かなの典型を示す古筆として尊重されている。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で
※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみも可)
臨書しましよう。



(五島美術館蔵)

※掲載図版・70%に縮小

※古筆は原寸(以上も可)で
※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみも可)
臨書しましよう。

漢字規定 初段以上【五月十五日締めきり】用紙 半紙普通判

辻元大雲選書

習い方解説 (一)

走筆飛觴 「墨場必携続対句選」
(筆を走らせ觴を飛ばす)

今回から担当します。四字句4回

五字句2回としました。

行草表現を主とし、なるべく半紙に収まり易い構成を考慮して参考例を試書しました。

初回は平易な行草表現です。やや柔らかめの羊毫中長峰を使用。伸びやかさと潤渴の変化でリズム感を出しています。書体自由ですので多様な表現に挑戦を。



走筆飛觴 よみ(筆を走らせ觴を飛ばす)

書体=自由

漢字規定秀級以下【五月十五日締めきり】用紙半紙普通判

半田藤扇選書

習い方解説(一)

桃李争妍
(桃李妍を争う)
「現代書作必携」

今月より6ヶ月担当します。虞世南といえば、「孔子廟堂碑」で

す。初唐の三大家の一人で、歐陽詢・褚遂良とともに書の黄金時代を築きました。

その作品は、おだやかで温かみがあり、品格が高く、また伸び伸びとしていて、嫌味やクセがありません。以上のような筆法を鑑みて、自然体で書作してみましょう!!

※羊毛筆を使用

参考作品

北魏風の楷書



桃李争妍 よみ(桃李妍を争う)

書体=楷書



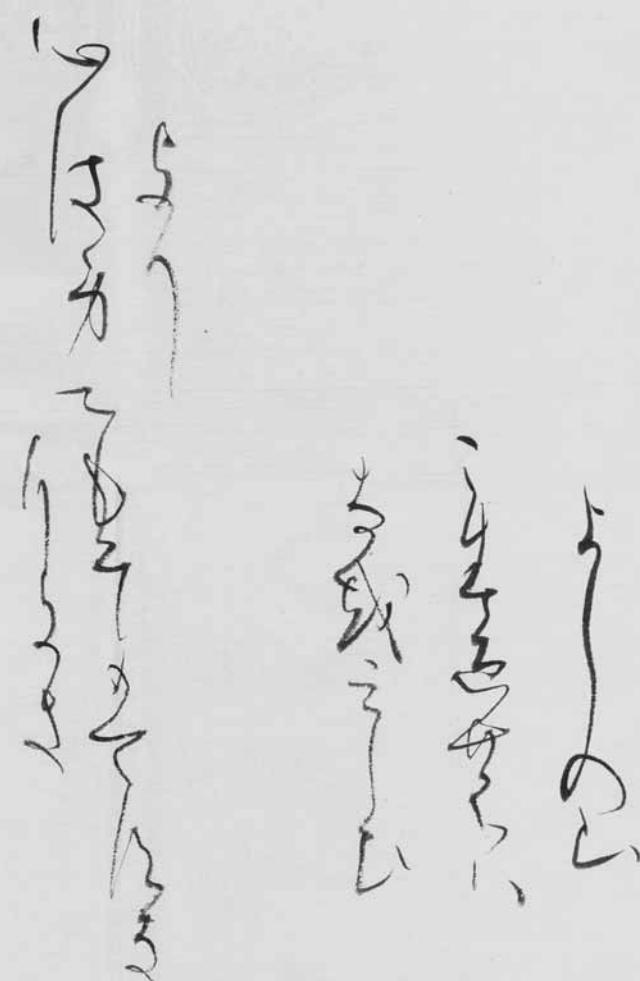
習い方解説(二)

習い方解説 (一)

下谷洋子

吉野山にすゑの花を見し日より
心は身にもそはすなりにき
(山家集)

創作



梅の花のため、身に添わなくなつた心の歌。昔の人は靈魂は肉体から遊離して“あくがれいづるもの”と考えたようです。

4月は、新年とはまた違った意味で新しい出発となりますね。本号から書道芸術に移られた学生さんもおられるでしょう。かなも、初めに基づ本の筆遣いを学び、単体連綿と進み臨書に移るかと思います。本書の臨書課題は「粘葉本和漢朗詠集」ですが、この臨書、とにかく最初はよく見ること。見る・観るです。字形はもちろん、線の長短、太細の変化、連綿の角度や長さなど、細かく觀察してから練習に入る。理解せず書いていては、後々役には立ちません。今回は、前半を塊にして後半のはじやかに運びました。短い行を添えると紙面に奥行きが生まれますが、これは縦色紙などからの発想です。ただ、勝手に書くのではなく、古筆を有効に活かしての紙面構成にしたいですね。

よみ方 吉野(よしの)山(いはず)(春)ゑ(恵)の(農)花(八奈)を(越)見(い)し口(ひ)よ(与)り
心は身に(も)そは(盤)ず(須)な(奈)りに(尔)き(文)

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

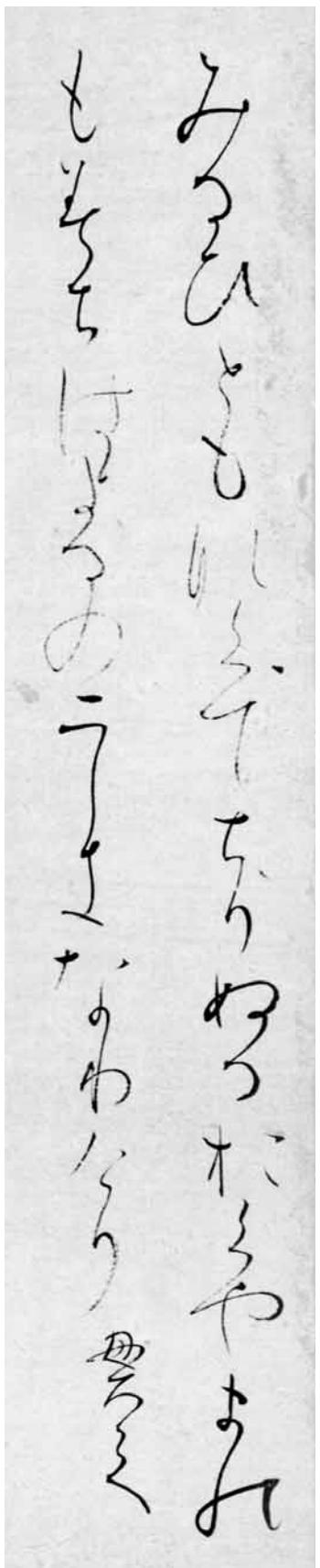
创作

創作

かな規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 みるひともな(那)くでちりぬるお(於)くやまの(能)
もみ(美)ぢはよるのに(一)しき(支)なり(利)け(介)り貫之

習い方解説 (一)

善養寺紅風

わが庭の竹の林の浅けれど
降る雨みれば春は来にけり
(若山牧水)

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書



条幅に和歌を書く場合、二行書きが一般的です。和歌は一首がかなり31文字ですが、漢字や変体がなを使い26文字から28文字位に収めると、まとめてやすいと思います。書き出しは、小さめにリズムにのって運筆し、2行目は上部を大きく書き、1行目とのバランスや大小、潤滑等に気を配ることで、自然なまとめ方になると思います。

* タテ形式に限る

よみ方 わが(可)庭の竹の(乃)林(者やし)の(能)浅け(介)れ(連)ど
降る雨(あ免)み(二)れば(盤)春は(八)來(幾)に(一)けり

創作

漢字条幅規定 初段以上 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

書体 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

習い方解説 (一)

種谷 萬城

竹外桃花三兩枝 春江水暖鴨先知
(竹外の桃花三兩枝 春江水暖かなるは鴨先づ知る。) 萬城書

竹外桃花三兩枝

春江水暖鴨先知

(蘇軾「惠崇春江晚景」)

書体 II 自由

先ず、北魏の造像記を臨書し、その後、その書風で蘇東坡の詩を倣書しました。点画が角張り、刀意があり、迫力に溢れ、豪放な魅力に富んだ書です。剛毛筆で濃墨を用い、起筆を強く打ち込み、力強い送筆と切れ味の鋭い收筆を工夫しました。気迫に溢れた書を書くには、適切な執筆法、腕法、姿勢と氣力の充実が大切です。

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書

習い方解説 (二)

千葉蒼玄

見渡す限りの春の景色はまるで錦のように鮮やかである。

楷書の基本といえばやはり唐時代の作品があげられるだろう。楷書の極といわれるのは九成宮醴泉銘であるが、顏真卿の多宝塔碑は若書といわれるが重厚で完成度は他の碑と比べても見劣りがしない。たっぷりと墨をつけ、おおらかに書くことが大切である。

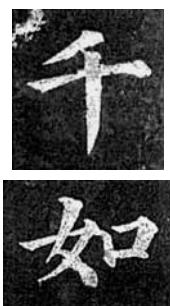
千里春如錦
蒼玄書

千里春如錦
(千里の春錦の如く)

書体 II 自由

「多宝塔碑」

顏真卿



北村白琉

蜂の羽音が

チューリップの花に消える

微風の中にひっそりと
客を迎えた赤い部屋

三好達治の詩 白琉書

書体=自由

今月より6ヶ月ペン字を担当させていただきます。

現在はパソコン、スマートフォン全盛で、筆はおろかペンを持つことさえしなくて済む時代ですが、せめて書を学ぶ私たちは展覧会の出品作品のみでなく、日常の生活の中でも書くことを大切にしたいと思います。気持ちを込めて丁寧に書くよう心掛けましょう。

蜂の羽音が
チューリップの花に消える
微風の中にひっそりと
客を迎えた赤い部屋
三好達治の詩

△用紙 ハガキ大(14×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「」注意!!
用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(14×10cm)を守って下さい。

卯月 穀雨 福島県 新潟県

卯月 穀雨 福島県 新潟県

三 浦 鄭 街

お陰様で元気に暮らしておりますので、ご安心を
お陰様で元気に暮らしておりますので、ご安心を

(楷書) 卯月 穀雨 福島県 新潟県
(楷書) お陰様で元気に暮らしておりますので、ご安心を

(行書) 卯月 穀雨 福島県 新潟県
(行書) お陰様で元気に暮らしておりますので、ご安心を

基本用語

「卯月」旧暦4月の別称。「穀雨」四節季の一
つで、穀物に恵の雨を降らす頃。

4月21日頃

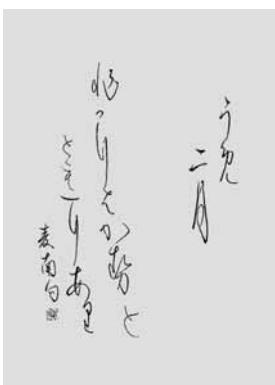
- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品
各部総評 No.730

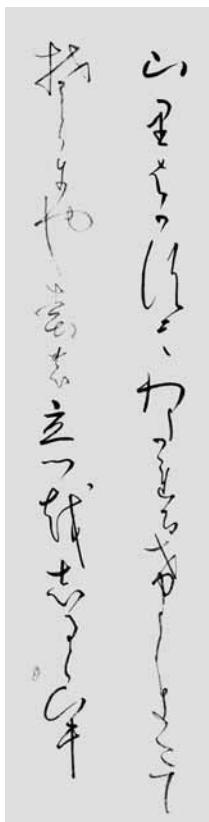
かな部 師範 山口 雪翠
氣負いなく自然に書いた様子だが、この自然さは普段の學習の賜物か。切れのある線も美しい。

◎かな部総評 俳句は通常よりやや大きめがよいが、大きすぎると見苦しい。美しさに基準はないが見る眼も養いたい。（洋子評）



漢字条幅部 師範 鶯山 美梢
柔らかな滋味ある線質が、ゆったりとした行書单体と調和し、安定感ある作。ホッと安らぐ気分。（大雪評）

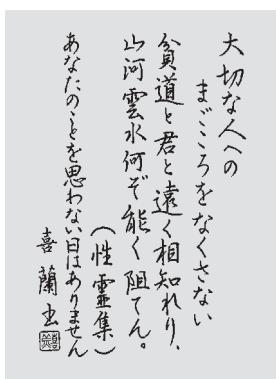
◎漢字条幅部総評 条幅課題は上級共書体自由である。様々な表現、書風の変化など色々積極的に挑戦してほしい。



かな条幅部 準師範 武内みどり
自然な流れの美しい作品です。過不足ない静かな表現力が魅力ですが、それを越える試みも是非！



◎かな条幅部総評 字の大小、墨量変化が極端でかな美から遠いいた作散見で残念。平素の発表の場が異なる人は配慮のこと。（明子評）



大好きな人の
まごころをなくさない
貧道と君と遠く相知れり。
山河雲水何ぞ能く阻てん。
あなたのことを思わない日はありません
（性靈集）喜蘭虫

前衛書部 特選 地頭 浩美
緩急異形の造形をとても上手に融合させ、躍動美を創出させた秀逸作です。

◎前衛書部総評 作品との対面でその用紙の役割は重要。質感が与える効果は多大です。（慧香評）

現代詩文書部 特選 波多 祥舟
濃墨で超長鋒の特性を活かして巧みな構成。特に風の右払いが空間に響いていて魅力的。

◎現代詩文書部総評 素材と線質の一一致や潤渴等今後も向き合いながら書作して下さい。（掃雪評）



漢字部 師範 磯貝 清耀
羊毛筆を巧みに操り、紙面を自由闊達に表現する筆さばきは、書き手の運腕が響きわたる。

◎漢字部総評 上級作品は、かなり行草書きの作が多かったが、無理なくすし字が目に付いた。字書使用に慣れましょう。（藤扇評）



（性靈集）喜蘭虫

実用書優秀作品

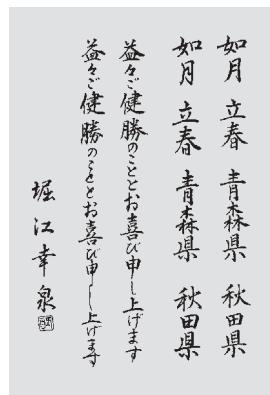
選評 岩垣若翠

◎実用書部総評

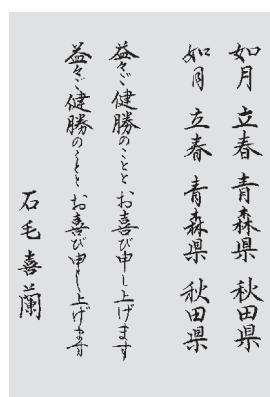
全体的に字形のバランス、構成など熟練された作品が多く見られたことは喜ばしい。落款は作品の一部として仕上げたい。

(若翠評)

一点一画丁寧で均整のとれた字形。
行の通り貫通して美しい。



伸びやかでシャープな線質が個性的。
気脈が感じられる作。



こ	八	田	八	八	紅瑠	や	有	紅風	楓会	水茎	うる	梓江	高崎	千葉	芳蘭 A	春汀	正華	石毛	樺江	及川	明日夏	喜蘭	泉	特選		
こ	枝	街	無	街		ま	秋		楓	會		大	雲	千	葉	春汀	正華	石毛	樺江	及川	明日夏	喜蘭	泉			
加	奥	井	飯	塚	虹	藍	相	澤	相	澤	田	玉	武	山	須	藤	清	水	篠	原	安	峰	美	加	子	佳作 (68)
藤	川	ノ	塚	川	澤	川	澤	澤	澤	玉	玉	山	山	山	千	山	山	山	山	山	山	山	山	山		
翠	麗	眷	郁	良	白	教	哲	哲	貴	惠	蘭	舟	楊	美	絵	蘭	舟	美	舟	祥	山	美	加	子	秀作 (68)	
陽	流	峰	洋	良	白	教	源	哲	貴	絵	美	舟	美	梢	美	美	梢	美	梢	美	美	美	美	美		
江	岱	も	英	清	紅	こ	東	玉	生	土	高	誠	千	竹	桂	竹	洞書	深	大	大	大	大	大	大	入選 (68)	
龍	翠	く	峰	月	瑠	だ	向	州	生	大	川	氣	真	和	竹	月	雀	書	大	大	大	大	大	大	大	
田	佐	佐	小	栗	北	菅	角	太	大	白	岩	石	池	飯	秋	桂	月	雀	書	大	大	大	大	大	大	
中	中	藤	木	原	爪	野	野	張	田	島	井	上	崎	川	田	龍	月	雀	書	大	大	大	大	大	大	
三	勝	紫	嘉	美	靜	芳	良	竹	綾	郁	甘	洋	俊	桂	華	華	華	華	華	華	華	華	華	華		
代	見	香	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か		
(選外)	大	昆	竹	帝	華	春	瀬	川	高	若	長	秀	東	高	澄	八	森	澄	立							
名	氏	名	恵	理	嘉	り	美	靜	芳	蘭	乃	子	雨	桂	華	華	華	華	華	華	華	華	華	華		
姓	略	略	華	枝	舟	江	奈	津	峰	愛	和	玉	江	子	典	子	余	子	絹	白	白	白	白	白		

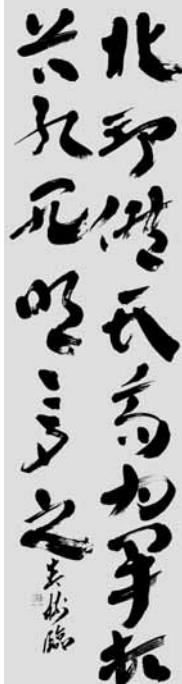
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 石井明子 佐藤菜扇

小品の部

臨書 (八街)
三浦英樹
「敦煌漢簡」



三浦英樹
臨

135×35cm

◆敦煌出土の草書木簡の
特質をよく捉えた作品で
好感がもてる。古典の原
点を求めて努力された。
(仙草評)

現代詩文書 (花埜)

高橋奎媛
「和紙店に」



高橋奎媛書

◆歌人をこんなにも深く
理解し、その思いを豊か
な表現力で描ききった力
作。俵万智に見せたいで
はないか。(明子評)

◆切れ味のよい伸びやかな
線が魅力的。草書木簡を正
確に表現し、表情豊かな波
勢は練度の高さを感じます。
(菜扇評)

「漢字」
(臨書の部)

「漢字」
(現代詩)

「前衛」
(創作の部)

「かな」
(漢字)

「かな」
(現代詩)

「かな」
(創作の部)

「かな」
(漢字)

「かな」
(現代詩)

「かな」
(創作の部)

「かな」
(漢字)

「かな」
(現代詩)

「かな」
(創作の部)

「かな」
(漢字)

総出品点数
90点

<小品の部>

創作の部(41点)

漢字――5点

かな――5点

前衛――8点

漢字――23点

かな――23点

漢字――49点

前衛――1点

漢字――1点

臨書 (紅瑠)
中嶋 澄
「敦煌漢簡」



中嶋 澄
臨

135×35cm

◆歌人をこんなにも深く
理解し、その思いを豊か
な表現力で描ききった力
作。俵万智に見せたいで
はないか。(明子評)

現代詩文書 (京橋)
田中一葉
「カムカムエブリ…」



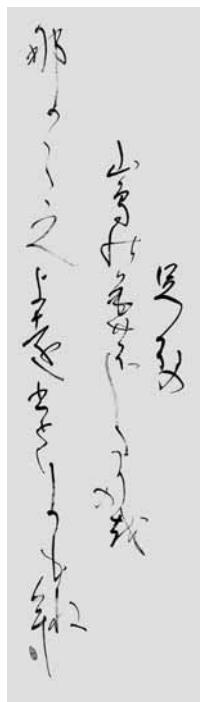
田中一葉書

137×35cm

◆朴訥な気風を漂わす厚味
ある筆致が、大小の変化、
行の揺らぎと共に独特的のリ
ズムを生み出している。
(大雲評)

大作の部

か
な
(奥田)
小林溪姫 「あしひきの」



160×45cm

◆160×45の紙面を自由に動き、スケールの大きい作品に展開した力強い筆致は美事。快い遊び心が魅力。(明子評)



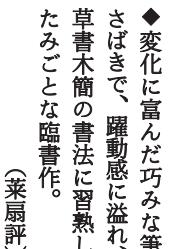
前衛書
(紅瑤)
佐藤成美
「留」

臨書 (大雲)
江本興舟
「敦煌漢簡」



江本興舟臨

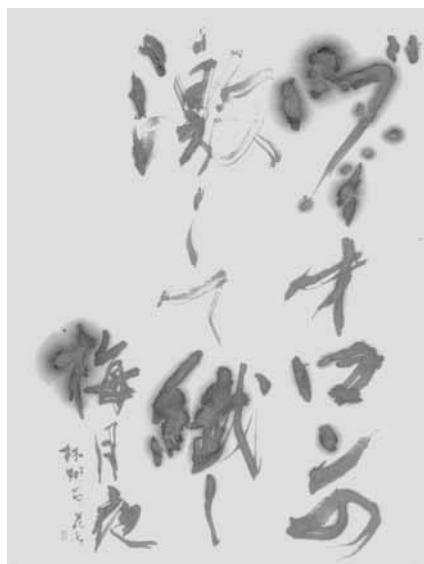
176×55cm



(菜扇評)

◆ダイナミックな直線、曲線により現代感覚の溢れた魅力ある作となつた。更なる発展を期待します。

(仙草評)



120×90cm

〈特選候補者〉

37

かなー1点

臨書の部(12点)
美字—11点

現代前衛—9點

かな一七点

創作の部(25点)

大作の部

現代詩文書
〔花香〕

藤井花香
「林翔の句」

林翔の句

(臨書の部)
「漢字」
紅瑠 相澤 敦子
樹原 紺野 遊山
紅瑠 木暮 千晶
「かな」 金井みどり
千葉 猪又 理扇

33

漢字研究部 (行草木簡)

選評 稻 埤 小 燕

今月のホープ作品



佐藤千秋

漢字研究部 特選 佐藤千秋
大胆な運筆、厚みのある線質で豊かな雰囲気を醸し出しています。木簡の特徴をよく捉え生命感漂う秀作です。臨書に必要な正確に捉えて書くという姿勢が表れています。更なる研鑽を期待いたします。

漢字研究部 特選 佐藤千秋
大胆な運筆、厚みのある線質で豊かな雲霧感を醸し出しています。木簡の特徴をよく捉え生命感漂う秀作です。臨書に必要な正確に捉えて書くという姿勢が表れています。更なる研鑽を期待いたします。

ようなことを体感しながら繰り返し書写し体で覚えることが大切です。しかし、木片に書かれ細部がわかりにくい文字も多々あります。学書にあたっては誤字を書かないことが一番大事なことです。必ず字典で調べてから書くという姿勢を身につけてください。そうすると迷わず運筆ができ、リズムのある生き生きとした文字となり筆を執ることが楽しくなります。



菜薹紫淑藍
夕右媛仙子水

美藤敦松龍祥
紀舜子苑直扇

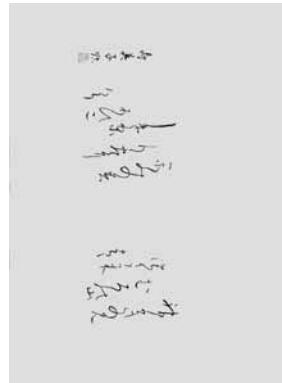
正育紫睦華祥

真玲泰杏淳雅
華子香邑泉芳

か な 研 究 部 (継色紙)

選評 奥田瑞舟

今月のホープ作品



田 畑 寿美子

◎かな研究部総評

濃いグレーの料紙に墨をのせ正確な筆使いで丁寧に表現されています。滲まない紙は楽と思われますが墨量が難しい。転折も美しく巧みな臨書作です。

◎かな研究部総評

一見して難しそうに思えない継色紙ですが、拡大して見ると線の繊細な絶妙の変化に気づきます。この気づきも楽しい。下の句の「廬」の研究が不足の方が多く見受けられました。

かな研究部成績表

華玉椿竹あ春中華大白黎 千楓高幽蓮白祥生若 澄椿墨正千たは姫白水土大誉大上麗春掃惠千や附
選幕竹己無白青 仙川翠美か汀川祥雲露明 葉会真光紅露紫大松 春翠縁華葉か泉せ路露海氣雲田春澤陽雪石葉ま中
選外張美未門驚連

〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 田 村 望 桜



(小) 今 橋 美 紅



(高) 楠瀬 桃花



(高) 渡 辺 桧



(中) 川 崎 明 日 香

ごあいさつ

公益財団法人書道芸術院 理事長 辻元大雲

新しい令和の年号も4年目を迎えました。全国学生書道展も73回目を開催できました。一昨年来の新型コロナウイルス蔓延の影響は、世界の様々な面に及び、世界的な規模に拡がって、いまだ終息の気配はありません。次々と発生する変異ウイルスへの対応などに翻弄されています。そんな厳しい苦しい状況の中で、全国の小学生から大学生まで広くまた多数の方々からご応募をいただき、深く感謝申し上げます。

お寄せいただいた作品は、半紙・半切½サイズそれに熱氣溢れる、気持ちのこもった力作揃いでありました。学習指導要領に基づく書写、書道から、更に広がりある楽しく、またしっかり安定した表現、高校生以上では古典臨書から創作まで、多様な作品で充実していました。

審査は公平、厳正を柱に、さらに今後への奨励の温かな配慮もしつつ行いました。ご応募された児童・生徒の皆さん、ご指導された先生方、更に親身になって支えて応援してくださったご家族、ご友人の皆さんに深く感謝申し上げます。

現在の状況を考慮し、帝国ホテルでの表彰式、展示会場でのワークショップは中止させていただきます。ご了承くださるようお願い申し上げます。

第75回記念書道芸術院展、併催の指導者作品展示も併せてご高覧いただき、ご指導ご協力ををお願い申し上げます。

△半紙の部 準大賞作品△

春野東
五年
石川琢馬
の島國

小六
高梨安弥佳
目標

六年
窪田優妃奈
元気な声

七年
宮本紗耶可
富士登山

中二
米増彩実
の高原宿

中三
笠子蓮美
理想の世界

(高)澤村千咲
書道

(高)淺羽七海
望除外咸令

高三
森本恭加
藏灌受胎

(大)池治朱音
掾陽守
属赤書

〈半切½の部 大賞作品〉



(高) 石澤音羽



(中) 平野莉音



(小) 櫻井晴日

〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 清水環



(中) 渡辺愛



(小) 柳田栄良



(高) 國松千聖



(高) 前原桃音

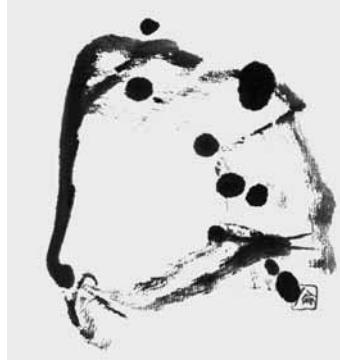


(中) 川上心大朗

第73回 全国学生書道展
「指導者作品展」役員作品



「翔」
顧問・名誉会員 浜谷芳仙



「生」
顧問・名誉会員 香川倫子



「魁」
顧問・名誉会員 小伏竹村



「玄黓」 運営委員長 辻元大雲



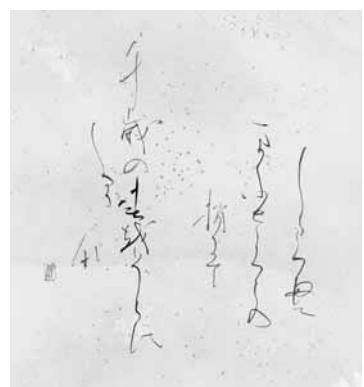
「衆心」
顧問・名誉会員 大野祥雲



「無為」
実行副委員長 後藤大峰



「子ども風の子」
実行副委員長 小竹石雲



「千歳の春」
実行委員長 下谷洋子

●篆刻

【五月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出典の際、原印のコピー添付)

②創作

語句自由

〈原印コピー〉



趙之謙 (清)

〔譚平定〕

4月号 摹刻課題

- 印面の大きさは2.3cm (八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

(摹刻)	
小北中大日雲秀	文筆特選 関谷香代子
林成小田沢	作(50音順)
淳能喜華仙	遊雲大雲芳琴
生たか大雲丸山	佳作(50音順)
(選外なし)	入選(50音順)
大附石大雲中心心	特選 関谷香代子
中佐藤島織田真義	作(50音順)
小游水唯映荒川星口	入選(50音順)
天皓洋唯空華峰	佳作(50音順)

(創作)	
大石大雲中心心	特選 藤井龍仙
中伊藤島織田真義	作(50音順)
生荒川星口	入選(50音順)
(選外なし)	佳作(50音順)

<特選>



「李誠」

摹刻

730号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰



「千神」

創作

101-0031	発行所	編集兼 发行人	辻元洋一(大雲)	令和四年三月二十五日印刷 令和四年四月一日発行
FAX	印 刷	データ処理	株式会社 リンクス	
振替	小沢写真印刷株式会社			
郵便番号	公益財団法人 書道芸術院			
東京都千代田区東神田一丁目六七 電話 (03)3862-1954 FAX (03)3862-1957	東京都千代田区東神田一丁目五 電話 (03)3862-1950 FAX (03)3862-1958			

1部 79円
2部 95円
3部 103円
4部 119円
5部 135円
6部 151円
7部 167円
8部 183円
9部 199円
10部以上は
送料免除

送
料

1か月の購読部数が

コロナ禍の中、当分の間十時
十六時に時間の変更しております。

※お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日(金曜日九時~十七時の間)
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

101-0031

東京都千代田区
東神田一~一六一七
東神田プラザビル三階

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

公益財団法人 書道芸術院